『深まりゆく』

標点

対話からはじまる新しい社会を目指して

県教育庁教育次長
梅﨑　聖

岡山での単身赴任生活も2年目となり、職場から見える操山が新緑眩（まぶ）しい姿から濃くなっていく様子や、県北への道中で眺める雲の影が映る山の美しさ、生える木々が変わる面白さに気づき、岡山への愛着の深まりを感じる。3人の子どもの面倒をみる妻の忙しさに気遣いつつも、気軽に出掛けられることに感謝し、さまざまな場に出掛けると、地域・社会をよりよくしたいと積極的に行動する方との出会いが多く刺激になる。

8月末に盛況のうちに終わった、ひとづくり・まちづくりフォーラムは、有志からなる実行委員会との共同開催だった。実行委員会のメンバーは、NPO法人や民間企業、PTAや教職員、教育学部の学生等の学校教育・社会教育の関係者といった多種多様な属性で80名ほど集まった。準備会合でこうした方々と話していると、多様な背景・考えをもつ人が集まる中でよく意見を聞き、ではこうした状況があったらいいよね、と周りの共感を得つつ、目指す方向性を提示するのがうまい方がいて感心する。

今年度のフォーラムのテーマは、「地域っておもしろい！～地域のアイが育む大人と子どもの可能性～」であり、ワクワクするところには自然と人が集まり、子どもから大人まで多様な個性が当事者として愛着をもって関われば地域はよりよくなっていくことを企図したものだ。発表団体もそのテーマのとおり、さまざまな課題が想定される現場にありながら、お互いのできることに着目して、前向きに達成感を感じながら取り組む事例が多く元気づけられた。（詳しくは、ひとづくり・まちづくりフォーラム2022特設サイトを参照）

先日、妻から、中2の娘が所属する吹奏楽部での大会参加をめぐる話を聞いた。メンバーを選抜して金賞を目指したい顧問の先生に対し、部員みんなで挑戦したいとかけ合ったとのことだった。対立したり困難な状況があっても、対話によってありたい姿を模索しながら、一人一人ができることに主体的に取り組める環境を目指す、そうした日々の取組が新しい社会をつくっていくと改めて考える。